

尾瀬散策

群馬県・福島県・新潟県

2023年 5月25日(尾瀬小屋泊)～26日

鳩待峠からの 尾瀬ヶ原



木道の間から顔を出す水芭蕉(ミズバショウ)

1日目 5月25日 <行程 4時間08分>

鳩待峠 10:28 → 山の鼻 11:39 → 牛首分岐 12:52 →
竜宮十字路 13:46 → 竜宮小屋 14:02 → 見晴14:36(尾瀬小屋泊)

2日目 5月26日 <行程 5時間34分>

見晴(尾瀬小屋) 6:58 → 東電分岐 7:22 → 東電尾瀬橋 7:36 →
東電小屋 7:52 → ヨッピー吊端 8:27 → 牛首分岐 9:16 → 山の鼻 10:11
→ 休憩後に研究見本園を一周(30分) → 山の鼻 11:03 → 鳩待峠 12:32

いつかは訪れたいと思っていた「はるかな尾瀬」。ついに福岡からの遠征登山を決行。歩くコースは一泊二日(小屋泊)で最もポピュラーなコース。お目当てのミズバショウは霜で傷んで見頃を少し過ぎていたようだが、二日間共にお天気に恵まれ2つの百名山(至仏山と燧ヶ岳)もクッキリ見えた。歩荷(ぼっか)さんにも出会えて充実した尾瀬散策だった。

5月24日(水) 北九州空港を出発 → 羽田着(他に所用がありこの日は秋葉原に宿泊)



機内から雪を纏った富士山を眺める



羽田で国際線第3ターミナルを見学

5月25日(木) 秋葉原 → 鳩待峠 → <尾瀬散策> → 尾瀬小屋泊

<今回利用した尾瀬登山口までの交通機関>

①東京駅(JR新幹線とき301号 6:08分発)→ ②高崎駅(JR上越線)→ ③沼田駅(関越交通路線バス)→ ④尾瀬戸倉(乗合バス)→ 鳩待峠 10:15着→ 徒歩2分で尾瀬登山口



①東京駅から新幹線で約50分



②高崎駅から上越線(在来線)で約50分



③沼田駅から関越交通バスで1時間30分



④尾瀬戸倉から乗合バスで約30分

東京駅から約4時間かけてようやく鳩待峠へ到着！ ここは群馬県利根郡片品村。

尾瀬戸倉からは交通規制があり、マイカー利用者も尾瀬戸倉の駐車場に車を停めて、ここからは全員乗合バスに乗車。環境保全是勿論、渋滞緩和、登山口混雑の対策にもなっている。



鳩待峠で降車して2分程歩くと・・・



鳩待峠休憩所が見えてきた



鳩待峠休憩所 10:17 ここが尾瀬ヶ原の登山口 標高1591m

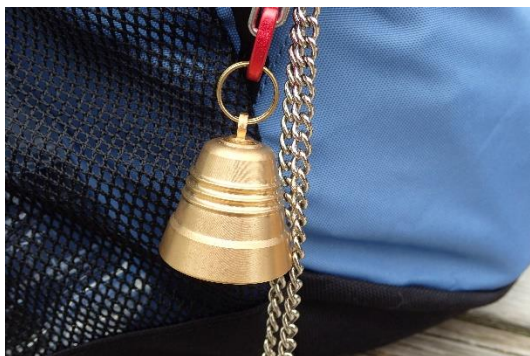
尾瀬は日本有数の高層湿原であり、国立公園、国の特別天然記念物、ラムサール条約湿地として指定されている。尾瀬ヶ原は東西6km、南北2kmの広大な湿原で5月中旬までは雪で覆われ、雪解けは5月中旬となる。尾瀬で観賞できる花の種類は900以上とされる。



休憩所の前を通り過ぎると登山口



出発前に尾瀬の標識と共に記念撮影



クマ鈴をザックにつけて



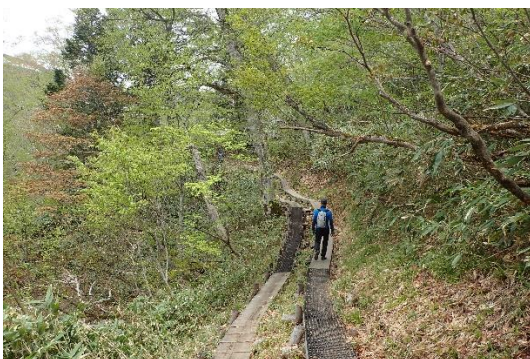
さあ、いざ尾瀬ヶ原へ！ 10:28 スタート



最初は新緑の中を石畳が続く 10:31



途中から長い木段を下る 10:39



木段は木道に替わった 10:42



左上には日本百名山の至仏山 10:46



ひたすら木道を下って行く(右側通行)



ヨセ沢を慎重に渡る 10:55 いい雰囲気



🦌シカ避けのネットの中を覗くと・・・



シラネアオイが咲いていた

近年尾瀬では🦌シカの食害が酷く、フィールド内にシカ避け柵を設置し、貴重な植物を少しでも守るように対策を施している。同時に毎年多くのシカが駆除されているが、その肉がジビエ料理として食卓に上ることはない。理由はシカに放射能の影響があるかもしれないからだ。



テンマ沢を渡る(🐻クマの頻出場所)11:10



🐻クマ避けの鐘を叩いて進む 11:12



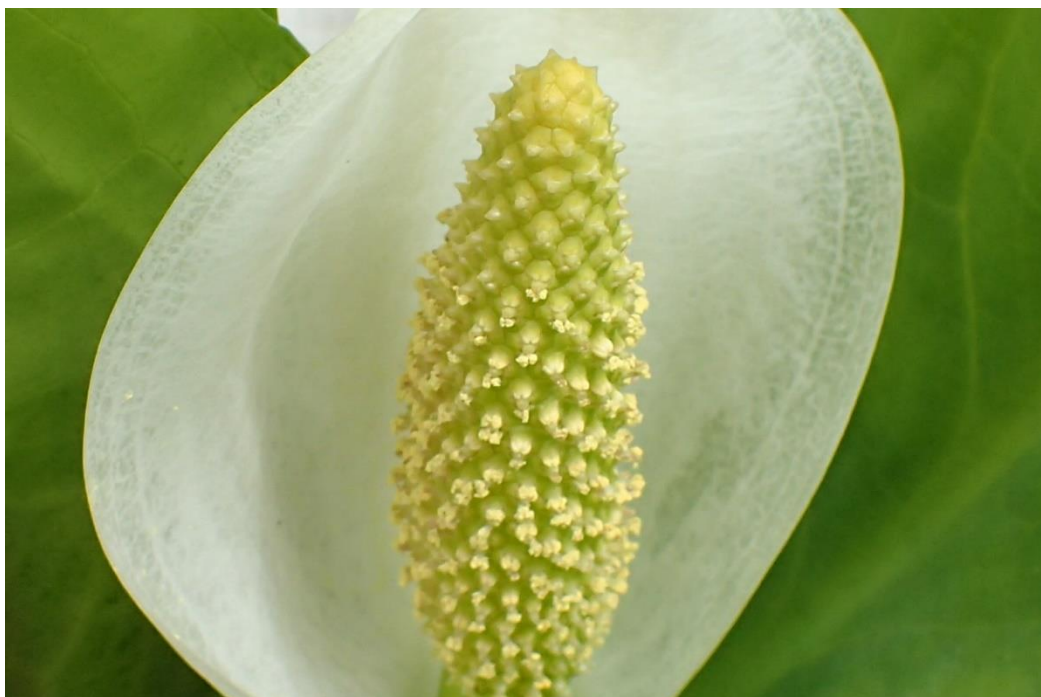
テンマ沢湿原 11:13 木道沿いにミズバショウが群生している(圧巻)

尾瀬では5月中旬の雪解けが始まると、尾瀬のシンボルであるミズバショウが咲き始め、その後はワタスゲ、レンゲツツジ、ニッコウキスゲ、カキツバタなどが湿原を彩ることになる。



ミズバショウを見ながら木道を歩く 11:16 実が熟すとクマが食べにやって来る(怖)

ミズバショウの花言葉は「美しい思い出」



白い部分は花ではなく蕾を包むように葉が変形したもので、仏炎苞(ぶつえんほう)と呼ばれている。本当の花は中心にある棒状の軸に無数に付いていて、このように穂のようになった花を肉穂花序(にくすいかじょ)と言う。山間部の水がきれいな湿地などを好む。(ネット調べ)



木道を左回りでカエル岩？を通過 11:22



ヤマザクラが咲いていた



川上川(一級河川)を渡る 11:33



オオカメノキ(ムシカリ)



ニリンソウ



ミヤマスミレ



山の鼻ビジターセンター 11:39



さっそく入ってみることにした



クマの剥製がお出迎え 11:41 本物には会いたくありません

館内を見学している最中に、一人の男性が入ってきてビジターセンターの職員さんに「さっき竜宮付近の川で🐻クマを見ました」と興奮した様子で申告していた。

「えっ、そこは我々がこれから歩くコースなのだが」、大丈夫？と不安がよぎる。



ニホンカモシカの剥製



トイレ(一人1回100円のご協力を！)



外のベンチで栄養補給🍱おにぎり一個



気温16℃で快適(ビジターセンター前)



休憩後、至仏山荘の前を通過



山の鼻から尾瀬ヶ原へ 12:05



ここから尾瀬ヶ原への木道が続く 12:07 ミズバショウがいい感じ
尾瀬の湿原に足を踏み入れて「本当に尾瀬に来たんだー」と気持ちが昂(たかぶ)る。



振り返れば至仏山(しばつさん)



進行方向の奥には燧ヶ岳(ひうちがたけ)

前も後ろも日本百名山。好天に恵まれ、「言う事なし！」のロケーション。
「出来ることならば双方の山頂から尾瀬ヶ原を見下ろしてみたい」と欲が出る。



これが尾瀬。広大な湿原と木道の世界に身を置くことで尾瀬に来たことを実感。 12:19
木道は尾瀬の風景の一つとなっていて、全長は60kmに及ぶと言われている。



池塘(ちとう)の間を木道が伸びる 12:27 カエルの鳴き声が響く
高層湿原が形成される過程において、堆積した泥炭層の隙間が水で涵養された部分ができる。これが池塘であり、周囲とは隔絶された環境であるため、独特の生物相ができる。池塘と池塘の間は地上、地下の水路でつながり、時に泥炭層の一部が浮島として浮遊することもある。(ネット調べ)



歩荷(ぼっか)さんとすれ違う 12:29 この山のような荷物は何キロあるのだろう？
聞いてみたかったが、さすがに大変そうで声を掛けることが出来なかった。



池塘に映る「逆さ燧」(さかさひうち)をゲット 12:33 運よく風が止んでラッキー



牛首分岐で休憩する大勢の登山客



牛首分岐の道標 12:52 竜宮方面へ直進



ショウジョウバカマ



まだまだ続く木道 13:00



ここから支線に入るとビューポイント



期待に胸を膨らませたが...



見頃は終わっていた 13:11

「下の大堀川のミズバショウの群生地」
 「しものおおほりがわ」ここは、背景に聳える残雪の至仏山とミズバショウがとてもよくマッチする最高の場所で、尾瀬のPRポスターにも採用される代表的なビューポイント。しかしながら、今年は雪が少なくて雪解けも早く、ミズバショウが早めに咲いたようだ。おまけに昨日の朝霜が原因でミズバショウが傷んでしまったとのことだった。残念。



気を取り直して竜宮へ向かう 13:17



タテヤマリンドウ



木道の間からリュウキンカ(立金花)が顔を出す 13:35 花言葉は「必ず来る幸せ」
この辺りはリュウキンカが木道沿いにたくさん咲いていて、正にリュウキンカロードだった。



尾瀬小屋から鳩待峠へ戻る歩荷さんと立ち話
ユーチューバーの彼は尾瀬を絶賛PR中！



竜宮十字路 13:46 休憩🏠
午前中にクマが出たのはこの辺りなのか？



タテヤマリンドウ



タテヤマリンドウ(白花)



竜宮小屋 14:02 小屋には寄らず左手から小屋裏へと回り込む



竜宮小屋の裏側は癒しのスポット



何度も深呼吸をしたくなる場所だった



竜宮小屋裏の癒しスポットを通り抜ける 14:08 沼尻川を渡り群馬県から福島県に入った



見晴(みはらし)地区の小屋が見えてはいるが、なかなか到達しない(笑) 14:27

この辺りの木道は痛みが激しく、朽ちかけていて表面がボコボコ。

注意しないと足を挫いてしまいそう。

正面の燧ヶ岳も終日クッキリ見えていて、本当に絶好の尾瀬ヶ原散策日和だった。



見晴に到着。 **14:36** 見晴には6軒の山小屋があるが、今日宿泊するのは「尾瀬小屋」だ！
鳩待峠から4時間08分経過。「山と高原地図」の参考コースタイムは2時間55分なので、休憩
時間も含めてだが1時間13分オーバーだった。それでも我々としてはまずまずのタイム。



「尾瀬小屋」 **14:38** ヨーロッパ風の広いテラスで登山客が食事やお酒を楽しんでいる
ここは山小屋？それともレストラン？ ナイフとフォークでステーキを食べている人がいた(驚)



テラスで記念撮影

🐻 クマに遭遇せず、無事に到着(安堵)

「尾瀬小屋」内を見てみよう！



受付&売店

本日の宿泊者タイムスケジュール

入浴 4～5名様目安 10～15分で
 男性 15:00～17:30
 女性 15:00～17:30
 夕食 17:30～18:15
 売店 18:45ラストオーダー
 消灯 20:00
 朝食 6:00～6:45 先着順
 チェックアウト 8:00 **時間厳守**



210号室に宿泊



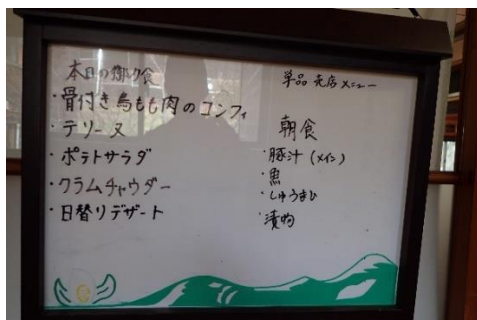
清潔感ある小屋内



畳の縁は「尾瀬」「ミズバショウ」のネーム入り



四畳の個室で快適だった



夕食と朝食のメニュー表



テリヤキ・鶏もも肉のコンフィ・クリームチャウダー

「尾瀬小屋」のテラスに出てみよう！



風呂上がりに尾瀬小屋のテラスへ 16:15 尾瀬ヶ原と至仏山にワインで乾杯

テラスはゆったりした時間が流れる至福の癒しゾーン

今日はこんなに快適な気候でゆったり寛いでいるのに、チェックインの際に「昨日は朝の冷え込みは-3℃で寒くて凍えそうでしたよ。でも今日お泊りの方はお天気も良く気温も上がって最高です！」と小屋番の方に言われた。福岡から遠征して来ただけに尾瀬の神様に感謝。



尾瀬国立公園 尾瀬ヶ原 標高1420m

二日目:5月26日(金)



小屋の前に歩荷(ぼっか)さんが使用する背負子(しよいこ)が置かれていた。歩荷体験用に、箱の中身は空っぽ。尾瀬小屋オーナーさんの説明によると、重さは7キロ位とのことだったので、ならば自分も体験してみようと背負ってみた。担ぐにも下ろすにもフラフラして要領を得なかった。背負ったついでにオーナーさんから記念写真を撮って頂いた。ありがとうございました。



尾瀬小屋を出発 6:58



標識を見てコース確認 6:59



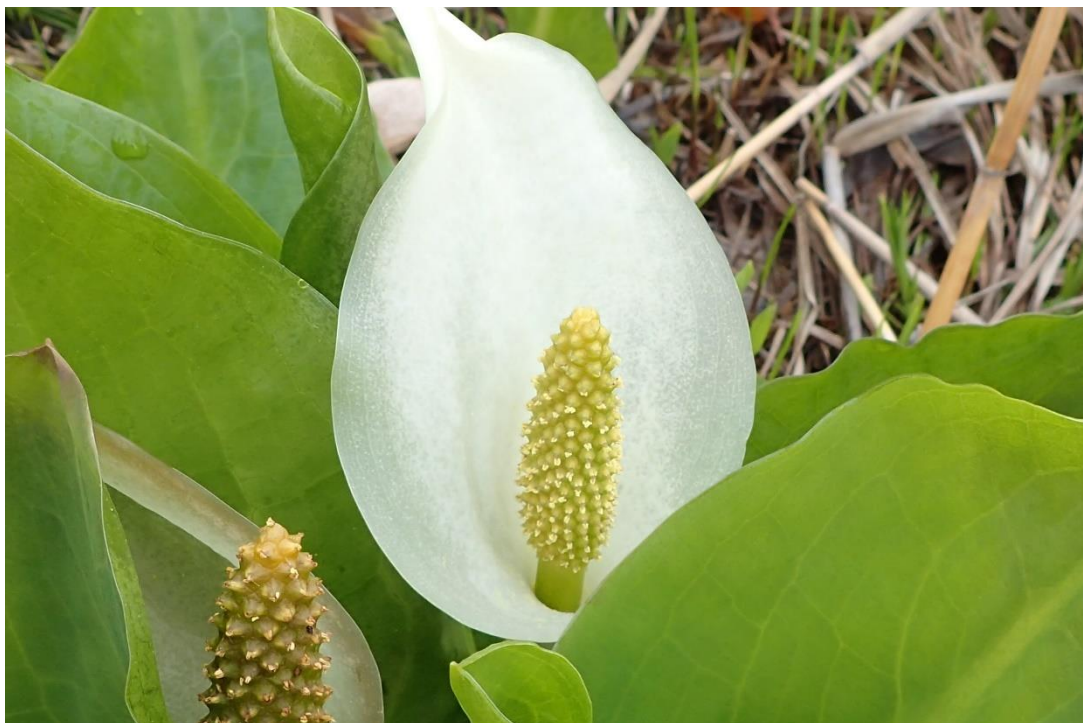
今朝は至仏山の山頂に雲がかかっている



朝の澄んだ空気で深呼吸 7:16



尾瀬小屋を出発して20分程歩くと、もうそこはミズバショウの群生地



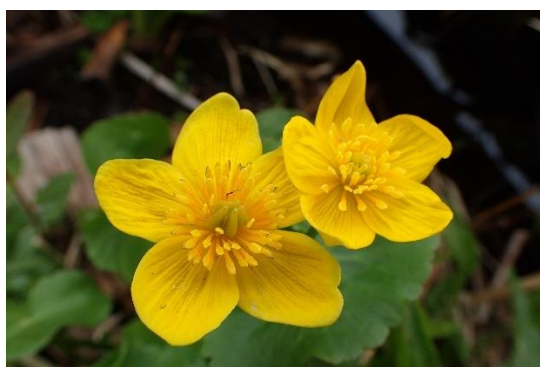
♪夏が来れば思い出す はるかな尾瀬 遠い空♪ と、つい口ずさんでいた
この歌を聞く限りではミズバショウは夏に咲くものと解釈してしまうが…。
尾瀬のミズバショウが咲くのは実際には春先(5月末)。これは、作詞者の江間章子が幼少期を
過ごした岩手県北西部が、夏でもミズバショウを見ることの出来る地域だったという事情があ
るようだ。尚、歳時記に掲載された俳句の季語は、ミズバショウは夏となっている。



東電分岐 7:22 東電小屋へ



「三条の滝」は往復約6キロになるのでパス



リュウキンカ



ミズバショウ



只見川が県境。橋を渡ると福島県→新潟県



東電尾瀬橋 7:36 川の流が速い



風が出て肌寒い 7:38 クマ鈴が鳴り響く



林の中を通り抜ける 7:48 何故か無風



東電小屋に到着 ベンチで休憩



東電小屋正面 7:52 ここは新潟県



東電小屋から下って木道へ 8:04 この先は「ヨシツ堀田代」のクマゾーン
至仏山山頂にかかっていた雲も、いつの間にか無くなっていた。



東電小屋(右)を振り返る 8:05 左の小屋は東電小屋別館



川の流れて咲くミズバショウ

♪夏の思い出♪

夏がくれば 思い出す
 はるかな尾瀬 遠い空
 霧のなかに うかびくる
 やさしい影 野の小径
 水芭蕉の花が 咲いている
 夢見て咲いている 水のほとり
 石楠花色に たそがれる
 はるかな尾瀬 遠い空
 夏が来れば 思い出す
 はるかな尾瀬 野の旅よ
 花のなかにそよそよと
 ゆれゆれる 浮き島よ
 水芭蕉の花が 匂っている
 夢見て匂っている 水のほとり
 まなこつづれば なつかしい
 はるかな尾瀬 遠い空



早朝で歩く人は少ないので🐻出没警戒
 クマ🐻避けの鐘を何度も鳴らす 8:11



クマ🐻と直接遭遇しないための高架木道



ヨッピー吊橋 8:27 揺れてビックリ



定員は10人(ここはもう群馬県)

この翌日に橋付近で🐻クマと遭遇し負傷した事案が発生。後日上毛新聞に掲載された。32P参照。



左に進むと30分で竜宮小屋 8:29



ヨッピ吊橋を渡り直進。牛首分岐を目指す！



池塘を見ながら 8:38 カエルの合唱



木道を踏み外すと川に落ちる 8:52



牛首分岐で休憩 9:16



尾瀬小屋で用意してもらったお弁当



📍おにぎりを1個ずつ食べて出発 9:31



川の辺(ほとり)にはミズバショウ



見るからに屈強な歩荷さん。でも優しそう 9:57 荷物の高さは3m位あるだろう
 淡々としたペースの足取りで安定感抜群だが、すれ違う際は何かこちらが緊張してしまう。



後姿も撮らせて頂きました。ダンボール箱を見るとほとんどが山小屋に届ける食材だ。
 まるで荷物が歩いているような後ろ姿。この姿が歩荷と呼ばれるようになった所以とか？



ミズバショウとリュウキンカの群生地 9:59 霧囲気があり尾瀬らしい場所
歩くスピードも自然とペースダウン



至仏山が近づいてきた 10:00 木道、川、水芭蕉、至仏山、この風景は忘れられない。



「尾瀬ロッジ」手前のミズバショウ 10:11



少し休憩して研究見本園へ 10:33



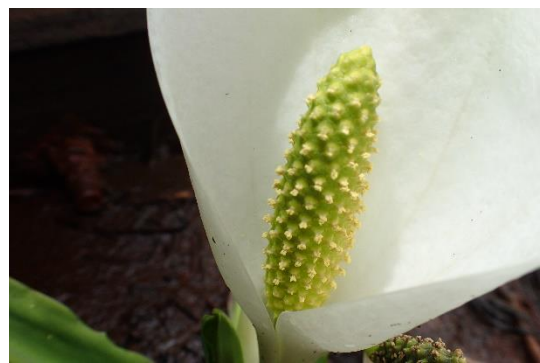
シカ柵ゲートを通過して研究見本園へ入る



花散策しながら研究見本園を一周



立金花(リュウキンカ)



水芭蕉(ミズバショウ)



研究見本園にも🐻クマが現れるそうだ



30分で研究見本園を一周した 11:03



山の鼻ビジターセンターに別れを告げる 11:05 今度はニッコウキスゲの群落を見たい



川上川を渡る 11:09 いよいよ最後の上りが始まるが、ちょっと寂しい気分



ニリンソウ



エンレイソウ



カエル岩？を通過 11:25



テンマ沢湿原 11:26 🐻 クマ避けの鐘



テンマ沢を渡る 11:33



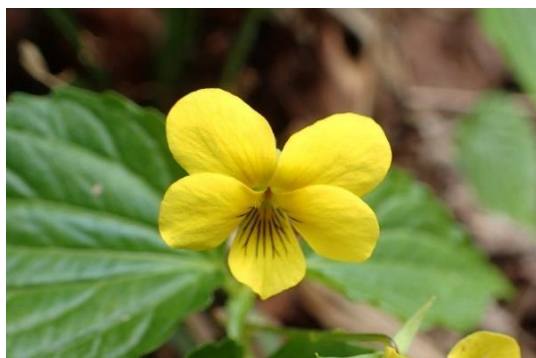
橋の途中、右下にプレートを見つけた



ミズバショウに名残を惜しむ



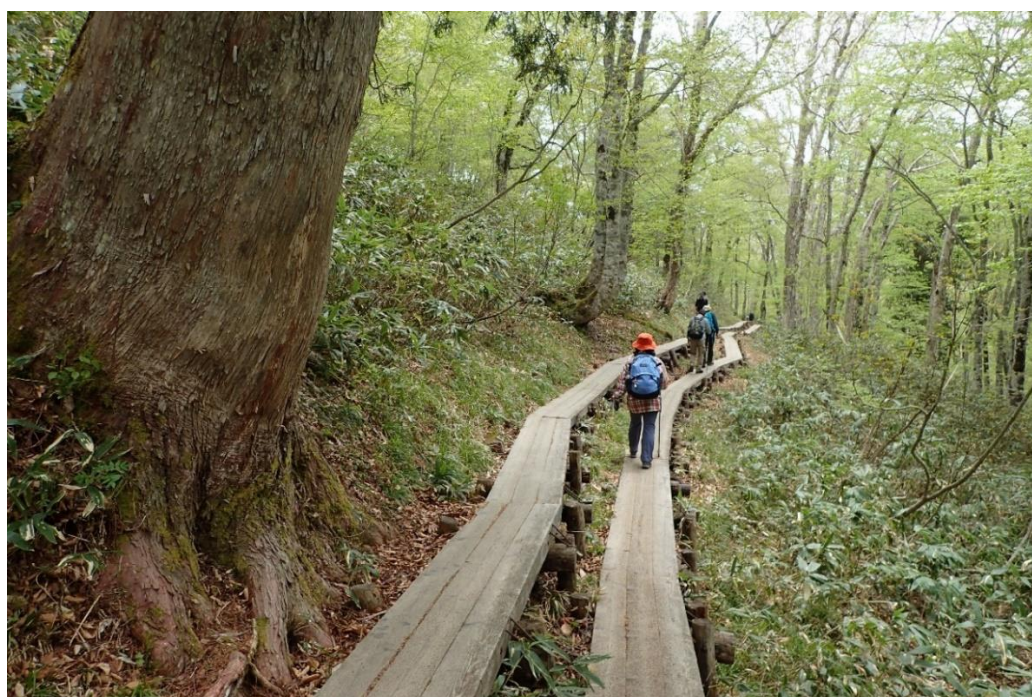
器量の良いミズバショウのファミリー



オオバキスミレ



ヨセ沢を渡る 11:52



山の鼻からの帰路は上りが続く 12:14 汗が滲んできた



登山者数調査の為、右側通行を！



長い坂を上り切ったぞー 12:31



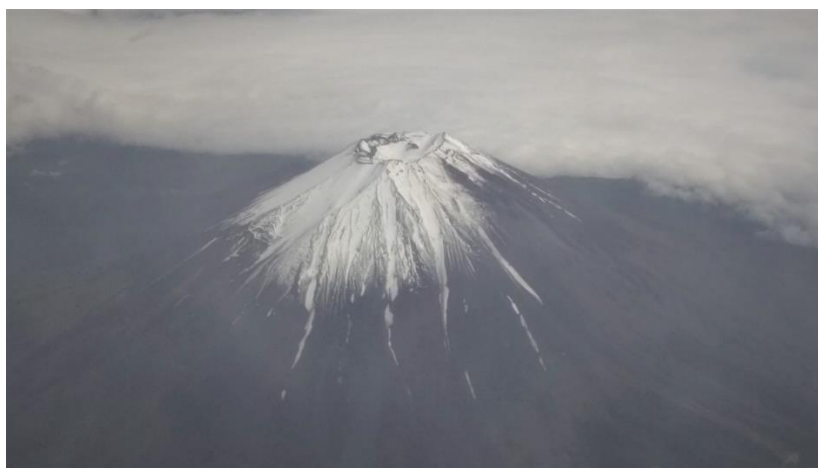
鳩待峠登山口に無事生還 12:32 あっという間の二日間だった

5月25日(一日目) 9.4km 18263歩 4時間08分

5月26日(二日目) 12.4km 22795歩 5時間34分

下山後、鳩待休憩所でお土産を購入。13:00の乗合バス(満席)に飛び乗った！

復路は、鳩待峠(乗合バス)→尾瀬戸倉(関越交通バス)→沼田駅(JR上越線)→
高崎駅(JR新幹線)→上野駅(JR山の手線)を乗り継ぐことに・・・また4時間耐えました(笑)



帰路も機内から富士山を見ることが出来た。幻想的で綺麗だった。

尾瀬小屋一泊の尾瀬散策は思い出に残る山行となった。お疲れ様でした。

我々の歩いた翌日にこのような出来事が起こっていた。

上毛新聞社ニュース 2023年6月5日 21:02 配信

尾瀬ヶ原でクマと鉢合わせ、腕を引っかかれ 男性けが 19 年ぶり負傷事案 群馬・片品村

尾瀬ヶ原のヨシツヅリ橋付近(群馬県片品村戸倉)で 5 月末、登山者がツキノワグマと鉢合わせして木道から湿原に転落し、軽傷を負っていたことが 5 日分かった。尾瀬でクマによる負傷事案が発生するのは 2004 年以来 19 年ぶり。尾瀬保護財団はホームページでクマと遭遇した場合の対処法などを掲載、鳩待峠や大清水の入山口などに事故の発生とクマの目撃情報を知らせる看板を設置して注意を呼びかけている。

同財団によると、事故があったのは 5 月 27 日午後 0 時 20 分ごろ。木道を歩いていた 50 代男性が近くの茂みから現れたクマに気付いた。後ずさりしながら笛を取り出して吹こうとしたところ、約 1 メートル下の湿原に誤って転落し、クマと鉢合わせする状態になったという。クマが逃げる際、男性は左腕を引っかかる軽傷を負った。

現場は通称「ヨシツヅリ堀田代」と呼ばれる湿地帯。クマの通り道に当たり、登山者との接触を避けるため、高さのある高架木道が設置されている。男性はその後、龍宮小屋を経て山の鼻ビジターに立ち寄って事故の経緯を説明。手当てを受けた後、同行者と下山した。

同財団は例年、クマの目撃情報をホームページで公表している。今シーズンは 2 日現在で山ノ鼻地区を中心に 28 件の情報が寄せられているが、今回の事故は目撃情報がなかったヨシツヅリ堀で起きた。尾瀬では 04 年 6 月、同所付近で登山者 2 人がクマに襲われ、重傷を負う事故が起きた。付近の高架木道はこの事故以降に整備された。

群馬野生動物事務所代表の春山明子さんは、クマも人間がいる場所や行動を把握していて、木道のある所は通らないようにしていると指摘。今回はミズバショウのシーズンで、クマが登山者の多さに慌てた可能性があるとする。「尾瀬はクマの生息地だということを、登山者全員が知らないといけない。見かけたときは立ち止まり、高架木道も無理に通らずやり過ごしてほしい」と話している。

まさか我々が歩いた同じコースで、しかも翌日にクマの事故があったとは驚きでした！

 クマ鈴は使用していたのだろうか？